

乳製品需給等情報交換会議

日時：平成 29 年 9 月 29 日（金）13:30～14:50

場所：（独）農畜産業振興機構 北館 6 階会議室

主な意見：

（日本乳業協会）

- ・ 家庭用バターについては、今年度も心配はないと思う。これは、冬から夏にかけて業務用ポンドに注力し凍結し、秋には家庭用に注力するという仕組みを近年構築したため。業界として、最需要期の 10 月から 12 月にかけて、家庭用バターの製造に力を入れている。

（日本パン工業会）

- ・ バターについては、量的な心配はしていない。小麦粉など原材料の価格の上昇を懸念している。

（全日本洋菓子工業会、全国洋菓子工業組合連合会、日本洋菓子協会連合会）

- ・ バターについては、ここ数年、安定供給されており、市場も落ち着いている。不足の時は 10 月を待たずに騒ぎ出したが、今は不足といった声を聞かない。
- ・ 国産生乳の生産が減っているのは心配。長い努力が必要と思うが、是非国産の増産をお願いしたい。

（卸売業者）

- ・ 家庭用バターについては、需要以上に供給されており、落ち着いている。今後とも、得意先の要望に応えられるよう、12 月の最需要期に向け、危機感を持って市場のバランスを注視していきたい。
- ・ 業務用バターについても落ち着いているが、国産バターの需要が強く、中長期での安定確保が重要。引き続き、安定供給に努めたい。

（中央酪農会議）

- ・ 都府県の生乳生産の状況は、北陸・東海以西は厳しい暑さにより、落ち込みが見られたが、主産地である東北・関東はあまり暑さの影響はなく、それほど生乳量の落ち込みはなかった。全体では見通しよりも良かった。

(東宗谷農業協同組合)

- 現在、北海道の生乳生産は、予想どおり上向きだが、台風の影響については、今後の倒れた飼料がどの程度収穫でき、また品質がどうか等を踏まえて検証が必要。

(ホクレン)

- J ミルクの当初見通しのとおり、8～9月から生産が回復している。ただし今回の台風の影響は、先にならないと見通せない。今後どうなるか懸念している。ホクレンとしては、親牛を中心とした生産振興に取り組むこと等で、生乳生産を早急に回復していきたい。